インフォメーション

シンポジウム ……126

イベントカレンダー ……128

メディア情報 ……129

出版物 ……130

沿革・組織図 ……131

シンポジウム
「生きがい」～人生 100 年時代 誰しもがウェルビーイングを感じ、自己表現できるまちとは～

2023 年 3 月 14 日（火）に東京大学浅野キャンパス内武田ホールにて、東京大学高齢社会総合研究機構（IOG）と東京大学未来ビジョン研究センター（IFI）の共催によるシンポジウムが開催されました。当日行われたプログラムの中で特に反響の大きかった2つの基調講演の概要をご紹介します。

「生きがい」をテーマとした 2022 年度シンポジウムを開催
– 東京大学 高齢社会総合研究機構（u-tokyo.ac.jp）
https://www.iog.u-tokyo.ac.jp/news/4291/

基調講演

『生きがいとウェルビーイングを考えるために』

東京大学大学院人文社会系研究科・社会文化研究専攻
東京大学高齢社会総合研究機構副機構長・准教授
祐成 保志

20 世紀に書かれた3つの書物が生きがいについて考える手がかりを与えてくれる。

Ⅰ 人間の課題として　神谷恵美子(精神科医)の洞察　「生きがいについて」(1966年)
生きがいをもたらすのは7つの欲求（成長と変化、意味、自己実現、反響、共感、友情、相互の愛）とその充足。
日常を超越した精神的な領域を重視し、人生の統合(完成)という課題のもとで生きがいを論じた。

Ⅱ 社会の課題として　W・ベヴァリッジ(経済学者)の構想　「自発的活動Voluntary Action」(1948年)
窮乏・疾病・無知・不潔・無為が5つの巨悪。失業と不安定雇用が窮乏を招く。
職業紹介により労働市場をつくり、失業保険から国民年金に至る社会保障で福祉社会を実現する。

Ⅲ 人類の課題として　梅棹忠男(生態学者)の懐疑　『わたしの生きがい論』(1981年)
生きがいはいらないのではないか。生きがいを追求しはじめると壁に激突する。
生きがいを肯定するとしたら人間のエネルギーをむだに、無効に消費できること。

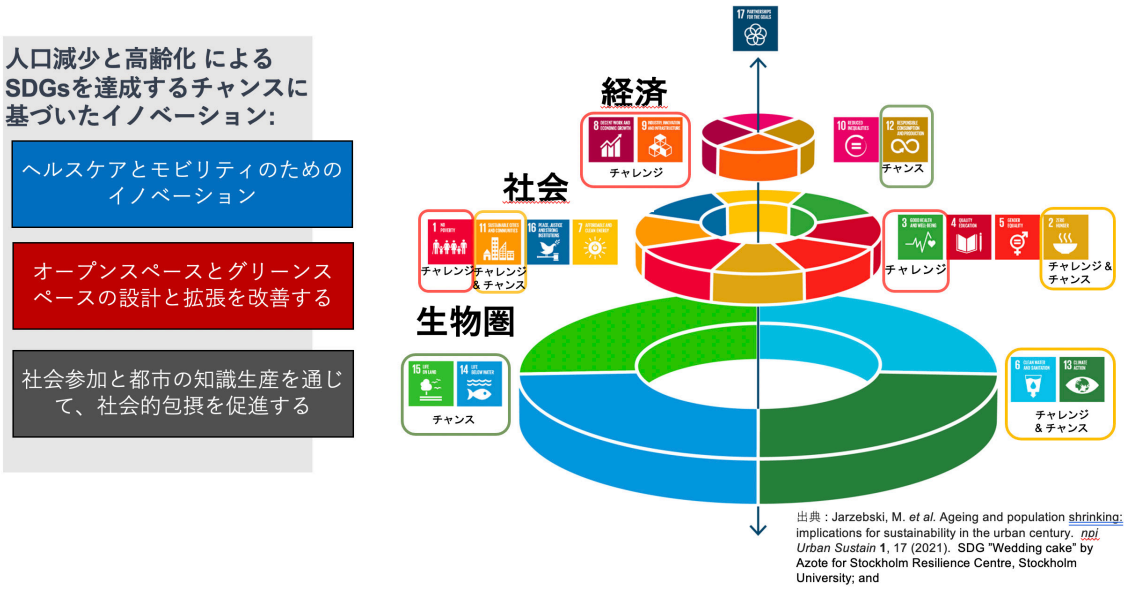
精神的な生きがいの追求は非社会的・反社会的行動の引き金になり、物質的な生きがいの追求は地球環境への負荷を増大させる。社会の減速により需要が減ると社会保障と雇用が維持できなくなる。不利な立場の人が低成長の影響を受けやすい。社会の持続可能性とウェルビーイングの両立のために政府と市場とコミュニティーがそれぞれの役割を果たし、エコ・ソーシャル・ポリシーを重視する必要がある。

『超高齢化と人口減少社会を見据えたサステナビリティの視点』

国連大学サステナビリティ高等研究所　リサーチフェロー＆アカデミックアソシエイト
東京大学東京カレッジ　連携教員　マルチン ヤゼムブスキ

現在、超高齢化と人口減少が進む社会において SDGｓの目標を達成するために、
さまざまな分野の研究者が集まってサステナビリティの視点から議論を重ねている。

ウェデイングケーキ風に表現した SDGｓの目標と人口減少・高齢化の関係



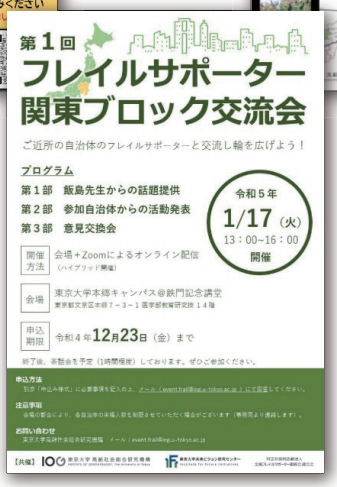
出典：Jarzebski, M. *et al.* Ageing and population shrinking: implications for sustainability in the urban century. *npj Urban Sustain* **1**, 17 (2021). SDG "Wedding cake" by Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University; and

上図は SDGｓに掲げられた 17 の開発目標の達成に人口減少と高齢化がどのように影響するかを表わしたもの。SDGｓに達成するチャレンジではなく、チャンスもあることが明らかになっている。経済圏において目標の 12（持続可能な生産と消費）、8（働きがいと経済成長）、9（産業と技術革新の基盤）は達成できるが若年労働者や納税者が減少するためインフラのメンテナンスが困難になる。生物圏においては人口が減少すると環境負荷が低減するため目標の 6（安全な水とトイレ）、14（海の豊かさ）、15（陸の豊かさ）は達成のチャンスが多い。たとえば、13（気候変動）については平均気温の上昇を2°C以下に抑えるために 2050 年までに必要な温室効果ガス排出削減量の 16 ～ 29%、今世紀末までに必要な排出削減量の 37 ～ 41%を達成できる。また、その SDGs を達成するチャンスに基づいて、ヘルスケアー、グリーンスペース、社会参加などのイノベーションを起こす可能性がある（上図の左の帯）。

超高齢化社会で人口が減少しても、人々は新しいものに情熱を傾け、新しい友情をつくり、新しいネットワークを築いて、社会活動を活性化することができる。新しいアイデアが新しいプロダクトや新しい収入を生む。これからの高齢者が生きがいを感じるためには、自分を見つめ直して社会に参加する方法を見つけて、新たな成長と学びの機会を求め続けることである。

イベントカレンダー

	2022年度
4月	**高齢社会総合研究国際卓越大学院　WINGS-GLAFS　2022年度開講式** **ジェロントロジー産学連携プロジェクト「ジェロントロジー・アカデミー」　2022年度開講式**
5月	**「おうちえ」第２弾　知恵でつながる地域の話　おうちえプラス「ちえのわ」リリース**
9月	**ジェロントロジー産学連携プロジェクト１Day Workshop**
10月	**柏キャンパス オンライン一般公開2022** 人生100年時代の最先端を楽しく学ぼう！
1月	**第1回フレイルサポーター関東ブロック交流会**
2月	**イオン東大里山ラボキックオフシンポジウム(シリーズ第2回)** 「新たな里山チャレンジが拓く未来の地球 ～地域貢献による健康長寿・幸福長寿の実現～」 **第6回全国フレイルチェックの集い** -フレイルサポーター主体の地域フレイル予防活動- 「フレイルサポーターの力で次なるステージへ～サポーターの創造力と協創力～」
3月	**シンポジウム** (P126-P127参照) 「生きがい」～人生100年時代 誰しもがウェルビーイングを感じ、自己表現できるまちとは～ **ジェロントロジー産学連携プロジェクト「ジェロントロジー・アカデミー」2022年度修了式** **高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS 2022年度修了式**



※P126・127参照

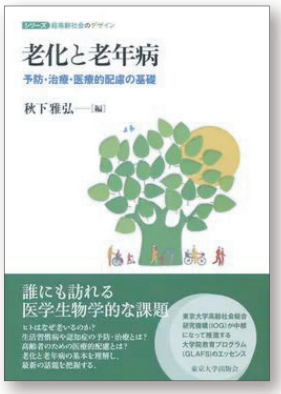
メディア情報

発売日・出演日	媒体・番組名	記事・特集名	執筆・出演者
2022/4/4	NHK Eテレ	きょうの健康 延ばそう!健康寿命　「フレイル予防　全国の現場」	飯島勝矢
2022/4/14	日刊工業新聞	医療変革　超高齢社会のフレイル対策(1) 超高齢社会に潜む諸課題と我が国の目指す方向性	飯島勝矢
2022/4/26	読売新聞	日常生活に「対策ちょい足し」	飯島勝矢
2022/5/12	日刊工業新聞	医療変革　超高齢社会のフレイル対策(2) 健康長寿実現のための「フレイル」とは	飯島勝矢
2022/6/9	日刊工業新聞	医療変革　超高齢社会のフレイル対策(3) フレイル対策とサルコペニア(筋肉減弱)対策	飯島勝矢
2022/6/17	放送大学	教育老年学(第12回) 「地域における高齢者学習」	荻野亮吾
2022/7/14	日刊工業新聞	医療変革　超高齢社会のフレイル対策(4) フレイル予防のための「3つの柱」	飯島勝矢
2022/8/10	日本経済新聞	シニアサポーター　口の老化、やり過ごしやすく	飯島勝矢
2022/8/11	日刊工業新聞	医療変革　超高齢社会のフレイル対策(5) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施	吉澤裕世
2023/8/11	ラジオNIKKEI	「薬学の時間」 地域づくりと高齢者の社会参加	飯島勝矢
2022/9/7	読売新聞	フレイル予防「できることから」薬学部生と教授が対談	飯島勝矢
2022/9/8	日刊工業新聞	医療変革　超高齢社会のフレイル対策(6) 原点である「食」を新たな視点で見直す	孫輔卿
2022/9/21	財界	特別座談会　85歳以上も社会参加できる世の中を	辻哲夫
2022/10/4	日経トレンディ	放置すると要介護が近づく!?　オーラルフレイル対策	飯島勝矢
2022/10/13	日刊工業新聞	医療変革　超高齢社会のフレイル対策(7) オーラルフレイル―健康な口からの戦略	田中友規
2022/10/25	読売新聞	食なび　8020運動④　口の中の健康対策重要	飯島勝矢
2022/10/25	EMOTIONAL LINK INTERVIEW	経営者なら心得ておきたい!健康リテラシー	飯島勝矢
2022/10/25	フジテレビ	林修のニッポンドリル ～学者と巡る昭和遺産!第2の軍艦島&給食・団地の歴史～	大月敏雄
2022/11/10	日刊工業新聞	医療変革　超高齢社会のフレイル対策(8) 身体活動と社会性―人とのつながりから再考	飯島勝矢
2022/12/8	日刊工業新聞	医療変革　超高齢社会のフレイル対策(9) ポストコロナ社会を見据えたハイブリッド型の地域交流	孫輔卿
2023/1/1	月刊「清流」	毎日声を出して、口周りを健康に	飯島勝矢
2023/1/6 2023/1/12	anow	高齢者が高齢者を支える社会へ【前編】【後編】 ～東大教授・医師による「IKIGAIデザイン」	飯島勝矢
2023/1/12	日刊工業新聞	医療変革　超高齢社会のフレイル対策(10) フレイル予防が軸"健康長寿まちづくり"	飯島勝矢
2023/1/12	FORBES(ネット版)	How Social Isolation Affects Heat Risks In Japan	大月敏雄
2023/1/14	婦人公論	75歳を過ぎたら、「メタボ」は気にしなくていい	飯島勝矢
2023/1/18	日本経済新聞	古い団地で安心して暮らすには? 地域ぐるみで健康に	辻哲夫
2023/2/28	日本経済新聞	首都圏郊外にも超高齢化の波	秋山弘子
2023/2/28	読売新聞	フレイル予防隊　実家の親にミニ筋トレお勧め	飯島勝矢
2023/3/28	読売新聞	健康維持は自分次第	飯島勝矢

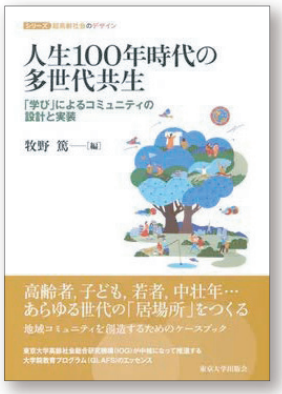
出版物

シリーズ〈超高齢社会のデザイン〉

GLAFS講義をもとにジェロントロジーという学問の体系化を目指すシリーズ本刊行中（2023年度以降も続刊予定）

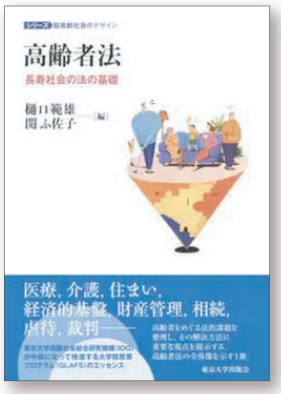


老化と老年病
予防・治療・医療的配慮の基礎
秋下雅弘編　東京大学出版会
2020年2月



人生100年時代の多世代共生
『学び』によるコミュニティの
設計と実装
牧野篤編　東京大学出版会
2020年9月

ジェロンテクノロジー
高齢社会を支える
情報通信技術の展開
廣瀬通孝・伊福部達編
東京大学出版会　2021年11月

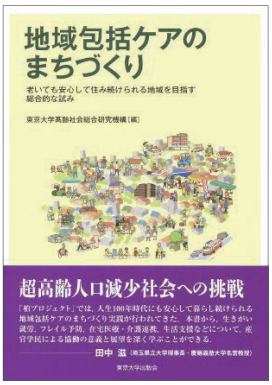


高齢者法
長寿社会の法の基礎
樋口範雄・関ふ佐子編
東京大学出版会　2019年8月

社会保障制度
国際比較でみる年金・医療・介護
岩村正彦・嵩さやか・中野妙子 編
東京大学出版会
2022年6月

ケアシステム
「治し支える医療」を実現する地域包括ケア
飯島勝矢・山本則子編
東京大学出版会
2023年３月

IOGメンバーの著書



地域包括ケアのまちづくり
老いても安心して住み続けられる
地域を目指す総合的な試み
東京大学高齢社会総合研究機構編
東京大学出版会　2020年10月

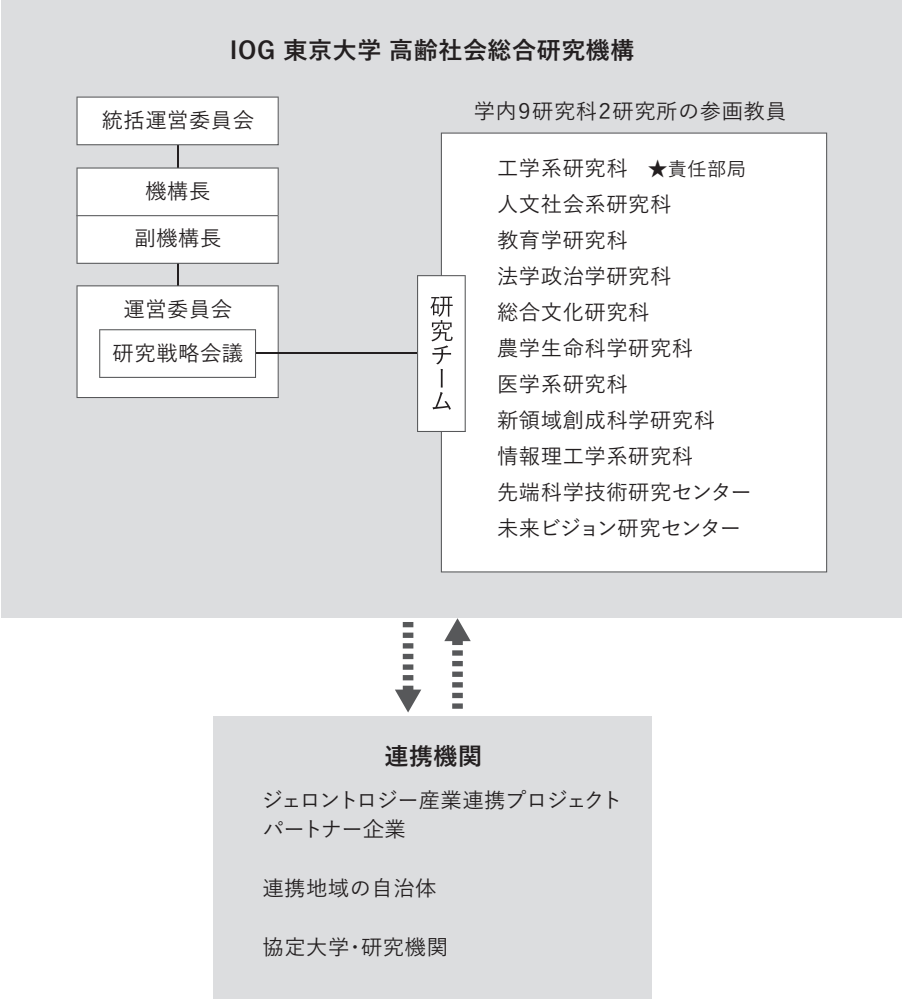
地域で取り組む
高齢者のフレイル予防
辻哲夫・飯島勝矢・服部真治編著
中央法規出版　2021年4月

地域教育経営論
学び続けられる地域社会のデザイン
荻野亮吾・丹間康仁編著
東京大学出版会 2022年10月

沿革

2006年 4月	**ジェロントロジー寄附研究部門　設置** （平成18年4月に、総長室総括プロジェクト機構の活動の一つとして、日本生命保険相互会社、セコム株式会社、大和ハウス工業株式会社の3社からの寄附金により設置）
2008年 4月	**学部横断型ジェロントロジー教育プログラム　開講**
2009年 4月	**総長室総括プロジェクト機構・高齢社会総合研究機構　設置** **産学連携ジェロントロジーコンソーシアム　設立**
2009年 6月	**柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会　発足** （柏市、東京大学高齢社会総合研究機構、独立行政法人都市再生機構の3者による共同研究会）
2010年 11月	**東京大学柏キャンパス第2総合研究棟　竣工**
2011年 4月	**産学ネットワーク「ジェロントロジー」　設立**
2011年 5月	**東京大学柏キャンパス第2総合研究棟　稼働開始**
2014年 4月	**博士課程教育リーディングプログラム** **「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」（GLAFS）　開講**
2020年4月	**連携研究機構・高齢社会総合研究機構に改組** **ジェロントロジー産学連携プロジェクトに組織変更** **国際卓越大学院教育プログラム（WINGS-GLAFS）　開講**

組織図



IOG 活動報告書 2022
東京大学高齢社会総合研究機構
Institute of Gerontology, The University of Tokyo

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部8号館7階
TEL.03-5841-1662（代表） / FAX.03-5841-1662
E-mail：info@iog.u-tokyo.ac.jp

発行　2023年9月

Editor/Writer 香川志帆（オフィスブライシング合同会社）
松嶋一人（株式会社シンカ）
池田大作（池田屋）
Designer 相馬丈晴（株式会社グローブグラフィック）
北川原由貴

http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/

IOGアニュアルレポート2022年度

東京大学 高齢社会総合研究機構
INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部8号館713号
TEL./FAX. 03-5841-1662